

# <町史だより>



## ※まちの秘話④

各分野における調査過程の情報の一部をみなさまにお知らせします。

### ～ 国学者・橘守部ゆかりの地を訪ねる ～

毎年、NHKで放送される大河ドラマをテーマに主人公や関係する地域を紹介する番組がテレビで放映されます。その影響もありドラマに関係する土地を訪れ、その時代の歴史に思いをはせる人々が多くいます。

今回は朝日町出身の国学者で、地元朝日小学校の校歌にも登場する橘守部を主人公に、その足跡や各地に残る痕跡をご紹介します。その業績等を知っていただく機会になればと思います。

橘守部（天明元年・1781～嘉永二年・1849）は江戸時代の国学者で、江戸時代後期に活躍し、平田篤胤・伴信友・香川景樹とともに天保の国学四大家の一人に数えられる人物です。幕末の嘉永六年にペリーが浦賀に来航する四年前にこの世を去ります。ちなみに国学とは、古事記や日本書紀、万葉集などの古典研究から日本固有の文化や精神を明らかにしようとした学問です。

守部は小向村、現在の朝日町小向に生まれ、その後、江戸（東京都）や武蔵国の内国府岡村（埼玉県幸手市）などに居を移し、五十歳を前に再び江戸へ戻っています。

地元朝日町に所在する守部ゆかりの地として、三重県指定史跡になっている「橘守部誕生地遺跡」があります。ここは名称のとおり守部の生まれた地です。また、同じく小向にある浄泉坊内には、守部により建てられた父飯田長十郎元親の墓碑があります。町内には、他にも歌人の佐佐木信綱の揮毫による石碑や歌碑、守部が幼少の頃手習いに通ったとされる金光寺などもあります。

関東地方では埼玉県幸手市の埼玉県立幸手桜高校内に「橘守部翁遺蹟碑」があります。この地に学校が建設される前、このあたりは守部が居住していたことから、昭和五年に「橘公園」として整備され、この石碑もその時に建てられたことが『幸手町勢要覧』（昭和六年）に記されています。同じ埼玉県内の児玉郡美里町には埼玉県指定旧跡「さらし井」があります。この旧跡内に守部による「三栗乃万葉歌碑」が建てられています。これは、万葉集巻九にある和歌と解説を加えた碑文で、守部は和歌に詠われている「那賀」という地名を、この地と考えていました。碑の建立は、地元の名主であった鈴木富明の依頼によるもので、人里離れた静かな地にこの碑が現存しています。

また、群馬県桐生市にある桐生天満宮には、守部が撰文した筆塚が残っています。この筆塚は、守部の門人である田村梶子を顕彰するため梶子の門人が建てたもので、守部が撰文を依頼されました。桐生は守部の門人たちが多く住んでいた地域の一つで、筆塚に近い桐生新町は古い町並みを残す伝統的建造物群保存地区になっています。

東京の浅草寺は、その境内弁天山に守部が池庵と号し住んでいました。残念ながらその痕跡は残っていませんが、守部が国学者として世に認められ活躍した時期に居住していた重要な地であることは確かです。その浅草寺の所在する浅草から隅田川を渡ると、長命寺（墨田区向島）というお寺があります。ここには守部のお墓があり、息子冬照のものと一緒に並んでいます。この墓所は墨田区の登録史跡で、同寺には冬照の妻東世子の歌碑も所在しています。現在では隣に幼稚園もあり子どもたちのにぎやかな声に囲まれて、守部のお墓は建っています。たくさんの門人を指導し、手習いの師匠もしていた守部らしい立地であると感じます。

このように地元だけでなく関東地方には、守部の足跡やゆかりのある地域があり、門人などとの交流を含めると全国に及びます。これらの地を訪れた時に、守部との繋がりを思い出していただければ幸いです。

守部は学者として、たくさんの門人に学問を教えていました。それにより、守部は国学者としての評価だけでなく、当時それぞれの地域の文化向上に寄与した人物として大切にされています。ご紹介したものの以外にも守部の書簡などが指定文化財になっている地域もあります。朝日町出身の人物が他の地域でも顕彰されていることは、今後の町史編さんで守部を取り上げる重要な視点であると思います。